

2024-2026 年度中期経営計画

2025 年度 実績報告書

学校法人共愛学園

企画調査室

目次

1. 実績報告書の概要.....	2
2. こども園 2025 年度実績報告書.....	4
3. 小学校 2025 年度実績報告書	7
4. 中学校 2025 年度実績報告書	10
5. 高等学校 2025 年度実績報告書.....	13
6. 短期大学部 2025 年度実績報告書	16
7. 大学 2025 年度実績報告書.....	19
8. 学童クラブ 2025 年度実績報告書	22
9. 法人事務局 2025 年度実績報告書	25
10. 実績報告書まとめ	28

学校法人共愛学園 2025 年度中期経営計画実績報告書

学校法人共愛学園

企画調査室

1. 実績報告書の概要

1-1. はじめに

2020 年 4 月私学法改正により、大学を設置する学校法人は中期経営計画の策定が義務化されている。本学園は、いち早く 2009 年度より中期経営計画を取り入れ、①教育研究・教育・保育計画、②学生・生徒・園児・児童募集計画、③学納金計画、④施設・設備・修繕計画、⑤人事計画、⑥その他の 6 項目で本学園が進むべき道を示してきた。

本学園の中期経営計画は PDCA サイクルに基づき、2018-2020 年度では形式自体を見直し、より明確な目標、より具体的な計画が策定できるように改善したが各項目の目標数を予め定めていなかったため行動目標数が多くなり、力の分散により未達成の目標も多く生じていた。2021-2023 年度では、前期計画の課題を踏まえ、①「教育内容」、②「教育組織」、③「教育環境」、④「教育運営」の 4 つの領域に絞り、それぞれの領域で事業の達成目標(KGI)を 2 つまでの設定とした。2024-2026 年度においては、長期経営計画の視点から、3 カ年のみの取り組みでは学園の将来像である「各部門とも県内 トップ校になる」の達成が難しいとの判断により、学園の前期中期経営計画ビジョン「教育の質を高める」を今期も継続することとした。

2024-2026 年度中期経営計画において、2025 年度は中間の年度にあたり、本報告書では当該年度の各部門における 1 年間の実績を報告する。

1-2. 実績報告書の評価基準について

実績報告書は公開を前提としているため、事業の達成目標 (KGI) の評価を重視する。ただし KGI は 3 年間の積み上げ式、すなわち、3 年間で 100%の達成を目指すため、各年度の実績については各年度の 1 年間で 100%の達成を目指す成果指標 (KPI) で評価する。また、評価方法は各部門よりエビデンスに基づいて記入された実績報告シートを企画調査室が検証し、以下の評価基準にて 6 段階で示すことにする。49.9%以下は本学園の達成基準を下回ったと評価する。また、未着手または目標の変更の場合は、F 評価とする。

また、評価は今後の各部門における業務運営の改善に資するよう、簡潔な表現で示すとともに、必要に応じて理由等を付すことを基本とする。また、特筆すべき点や今後の取組に係る課題がある場合には、簡潔な文章による意見を付すことにする。

1-2-1. 6段階評価の評価基準

評価	KPI 達成率	報告書での表現方法
S	100.0%以上	目標を達成した。
A	80.0～99.9%	ほぼ目標を達成した。
B	60.0～79.9%	概ね目標を達成した。
C	50.0～59.9%	半分程度は目標を達成した。
D	49.9%以下	着手したが、目標達成基準を下回った。
F	－	未着手または目標の変更

1-3. 成果指標（KPI）の評価方法について

各部門が設定した事業達成目標（KGI）の評価は、3カ年計画の各成果指標（KPI）の達成率に基づき評価する。成果指標の達成率は、各KGIに設定された行動計画の達成率に基づき評価している。すなわち、事業達成目標を達成させるために細分化された各行動計画の達成率が、全体評価の基準となる。

各行動計画には成果指標（KPI）が設定されており、各部門の担当者は、行動計画の年度実績チェックシートに成果指標の達成率とエビデンスを記入し、本学園企画調査室に提出する。企画調査室は、各部門の担当者が記入した自己評価の妥当性を検証し、報告書を作成する。作成した報告書は、内部監査室に提出され、企画調査室の評価結果を検証したうえで、内部監査委員会に諮り、最終的な評価を確定させている。

1-4. 実績報告書で使用する用語説明

中期経営計画はこれまで学校法人では馴染の無かった経営的な専門用語が使用されているため、まずは本報告書で定義されている用語を確認することにより、理解を深められるよう以下に説明を付す。

① ビジョン

ビジョンは、各部門のミッションを踏まえ、方向性・目指すべき姿を簡潔に示したメッセージである。3年後にどのような学校になっていきたいか、どのようなことを達成したいかなどの将来像が示されている。

② 領域

領域は、各部門が運営・業務を行う上でのトップテーマであり、活動領域を示している。

③ 事業達成目標（KGI）

KGI（Key Goal Indicator）は、事業を達成させるための具体的な最終目標である。KGIは重要目標達成指標であり、各部門が達成すべき目標を定量的、定性的に表している。

④ 成果指標（KPI）

KPI（Key Performance Indicator）は、行動計画の達成度を評価するための中間目標であり、本学園ではKPIの評価が事業達成目標（KGI）の評価につながっている。

2. こども園 2025 年度実績報告書

2-1. こども園取組み事業総括

2024-2026 年度こども園の中期経営計画ビジョンは、「互いに愛し合い、多様性に寄り添った豊かな保育」であり、ビジョンに基づき4つの領域、8項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には3カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度における KPI の実績は、教育運営の領域はほぼ目標を達成したが、教育内容、教育組織は概ね目標を達成、教育環境は着手したが、目標達成基準を下回った。

2025 年度は、保護者参加型の活動として、園庭のテント設営やプール掃除、プール監視、給食試食などを積極的に実施し、保護者のこども園への理解促進と信頼関係の構築につなげている点は高く評価できる。加えて、芋苗植えや餅つき等の行事に老人クラブや民生委員が参加することで地域との交流を深め、消防署見学も含めて、地域資源を活用した豊かな教育・保育活動を展開していることは大変意義深い。また、園児数に応じた適切な人員配置により、人件費の抑制を図りながら安定した運営に努めている点も評価できる。施設設備費・衛生費の値上げによる収支改善の目標は達成できなかったが、保護者負担軽減に向けておむつのサブスクリプション導入を進め、2026 年度から開始する体制を整えたことは、利用者ニーズを的確に捉えた先進的な取り組みであり、多くの保護者から期待を得ている。加えて、家庭と園が協力して取り組める工夫を実践している点も評価できる。家庭からのお口ふきタオル持参や、職員によるペーパータオル使用削減、給食提供量の見直しなど、細やかな経営努力を積み重ねることで、保護者負担の軽減と安定した園運営の両立を図っている。

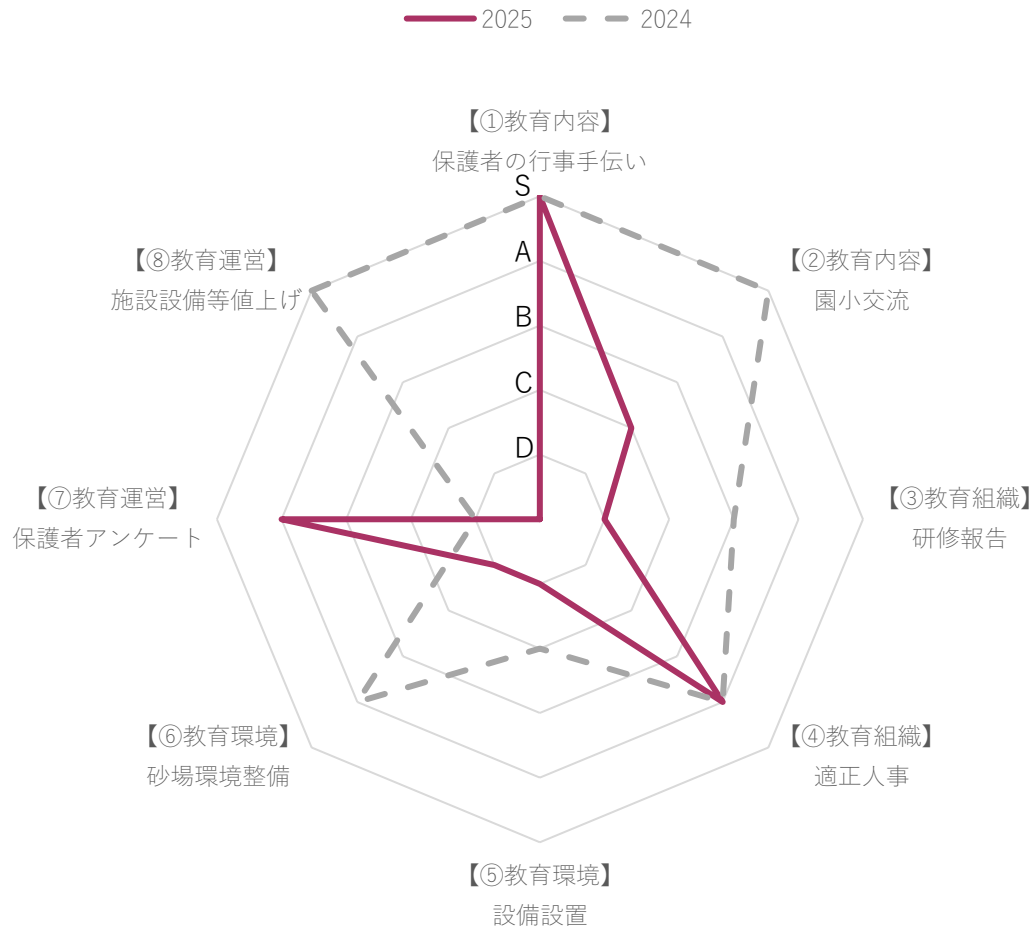
評価の低かった KPI を見ると、小学校職員による体験授業や、こども園職員による授業参加を通じて、相互の教育・保育理解を深める機会が設けられたが、一部活動が十分に実施できなかったことは課題として残る。職員研修について参加機会は確保されているものの、学びの共有や保育実践への還元には工夫の余地が見られる。また、職員同士が専門性や強みを生かし合える体制づくりについても、さらなる充実が期待される。暑さ対策として遮光ネットやテントを活用し環境整備に努めている点は認められるが、ひさし設置には至っておらず、安全で快適な保育環境づくりに向け、計画的な整備が望まれる。砂場周辺の水環境についても、現場で工夫し対応しているものの、継続的な運用負担が見られるため、今後の改善が期待される。

こども園は0歳児から受け入れを行い、地域との結びつきも強いことから、総合学園である共愛学園の“最初の窓口”として重要な役割を担っている。園での経験や保護者対応は学園全体の印象形成につながるため、乳幼児期にふさわしい丁寧で温かな関わりが求められる。また、多様な家庭を支える地域拠点として、継続的な信頼構築に向けた取り組みも欠かせない。そのため、中期経営計画の中で保育理念や方向性を明確にし、職員間で共通理解を図りながら、組織的に実践できる体制づくりが望まれる。

表 2-1-1 こども園の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の3カ年計画 (2025年度)	単年度成果指標 (2025年度KPI)	2025年度 KPI達成率	評価
教育内容	①	共愛の精神を土台にし、日々の保育を可視化する	地域との繋がりを大切にし、園を身近に感じてもらう	行事のお手伝いの依頼 行事による訪問	100%	S
	②	園小の交流を深め、職員間の学びにつなげる	職員交換し、お互いに職場理解	年間3回程度	50%	C
教育組織	③	研修や学びを深め個々の資質向上から園全体の質の向上につなげる	積み重ねた研修で保育観や視野を広げ保育の質の向上	職員会議ごとに研修報告を行ない、得意分野を認め合う	40%	D
	④	長期的に園児数等を加味して人員数の精査や適材適所の配置	園児数に対する適正な職員配置/ 人事考課	非常勤職員の契約更新等の見直し	90%	A
教育環境	⑤	フェンス、ひさし設置計画、遊具等の定期的点検	未満児クラス前のひさし設置計画	見積もりを取り、計画的に予算に計上する	40%	D
	⑥	未満児保育充実のための環境を整え、魅力ある園として保護者にアピールできるようにする	砂場周辺の水回りの整備	年度内に実施	30%	D
教育運営	⑦	定員確保	オムツのサブスクリプション検討（0歳から）	保護者へのアンケート実施	90%	A
	⑧	経常収支の黒字化	施設設備・衛生費の値上げ	25年度に3000円から5000円に値上げ	—	F

こども園 2025年度KPI評価



3. 小学校 2025 年度実績報告書

3-1. 小学校取組み事業総括

2024-2026 年度小学校の中期経営計画ビジョンは、「共愛学園小学校の教育が知れ渡り、誰もが入学したくなる小学校を目指す」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度における KPI の実績は、教育内容、教育環境は目標を達成し、教育組織はほぼ目標を達成した。教育運営は概ね目標を達成できている。

2025 年度は、各学年が外部から与えられた課題に主体的に取り組み、体験活動や調査、話し合いを通して解決策を提案するなど、探究的な学びの充実が図られた。外部評価も高く、児童の主体性や表現力の育成につながった。主体的な活動の反面、想定を上回る活動時間を要した場面も見られたことから、今後は発達段階に応じた目標設定、計画的な時間配分等、カリキュラム改善を進めていく必要がある。小中交流や部活動交流については計 6 回実施し、児童生徒が互いに関わる機会となった。交流により得られた課題には、共同学習や共同活動などを通じて、より充実した連携となるよう工夫が望まれる。大学教員との連携による授業研究会の実施や先進校視察、外部研究会への参加を積極的に進めており、教員の専門性向上に向けた取組は着実に成果を上げている。理論と実践を結び付けながら授業改善に取り組む姿勢が見られ、教職員が学び続ける組織風土の醸成につながっている点は評価できる。組織運営の面では、中堅・若手教員が学校運営の中心的な役割を担う場面が増え、次世代のリーダー育成が進んでいる。振り返りアンケートでも、「主任としてリーダーシップを発揮できた」「主任を積極的に支援できた」といった項目が高評価であり、協働的な組織文化の形成がうかがえる。一方で、学年によって教員の年齢構成に偏りが見られ、同年代の教員が多い組織ではリーダーシップの発揮や役割分担が難しい場面もあった。今後は、経験年数や年齢構成を踏まえた組織編成を進めるとともに、若手・中堅教員がより力を発揮できる環境を整え、組織力のさらなる向上につなげていくことが期待される。

KPI 達成率は高いものの、更なる改善が求められる事業として、登下校時の電車利用指導が挙がる。マナーの向上が見られた様子であるが、事業の成功には保護者による協力が大きく、教職員として出来ることを検討することも必要である。また、補助金等を活用しながら設備整備できた点は評価できるが、日頃の点検や計画的な更新・改修の実施、さらには保護者後援会との関係性の構築による予算面の確保にも注力が求められる。

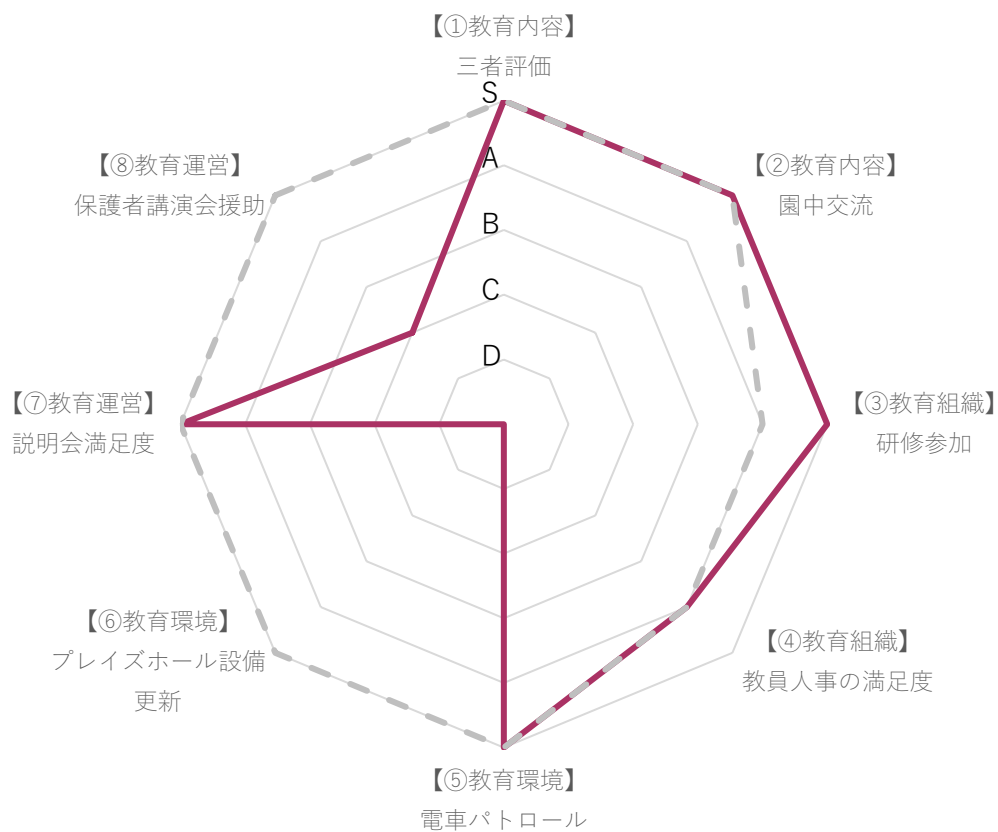
定員確保による収入増加を図ることは喫緊の課題であるが、学校説明会では 9 割の参加者から「大変よい」と高い満足度評価を得ている事実もあり、参加者数の拡大を通じて、小学校ならではの魅力や教育の特色を周知することが求められる。

表 3-1-1 小学校の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の3カ年計画 (2025年度)	単年度成果指標 (2025年度 KPI)	2025年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	心優しく主体的に学ぶ児童の育成を図り、学校の指導体制を確立する	外部から課題をもらい、児童が解説策を提案する課題解決ワークを実践する	外部講師の評価(90以上) 児童の自己評価(90以上) 教師の評価(5段階で4以上)	100%	S
	②	こども園や中学校と連携し、教育内容や教員同士の交流を図る	中学校との年間の交流計画を確立し、児童・生徒の交流を実践する	中学生に来てもらう行事、小学生が中学校を来訪する行事、合わせて年回5回以上実施	100%	S
教育組織	③	学習指導と児童理解の両面から研修を行い、教員のスキルアップを目指す	主体的に学ぶ児童の育成に向けた授業研究会の実施と外部研究会への参加を推進する	・年間代表授業2例実施 ・外部の研究会への参加5人以上	100%	S
	④	教職員を適材適所に配置するとともに人材育成を目指した組織作りを図る	学年主任等の主だった役職を中堅の教員に任せて学校運営を進める	教員の振り返りアンケート 満足度90%以上	80%	A
教育環境	⑤	登下校や学校生活での安全を確保し、安心して学べる環境作りを図る	電車利用者の意識向上を図り、児童が安全に登下校できるようにする	教職員および保護者の協力による電車パトロール10回以上	100%	S
	⑥	教育環境の充実と施設利用者の利便性向上	プレイズホール大型液晶プロジェクター更新	経年劣化による輝度低下等のため新機種に更新する	—	F
教育運営	⑦	広報活動の方法を再検討し、定員を確保できるように努める	学校説明会の内容を工夫し、多くの参加者に満足してもらえるようにする	説明会アンケートの満足度 90%以上	100%	S
	⑧	経常収支差額の黒字化	保護者後援会からの教育備品購入補助の拡大	現状を超える(10%以上)援助を要請し収入増を図る	50%	C

小学校 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



4. 中学校 2025 年度実績報告書

4-1. 中学校取組み事業総括

2024-2026 年度中学校の中期経営計画ビジョンは、「総合学園共愛学園の中等教育の前期課程に当たる中学校の教育内容の質の転換を図ると同時に小→中→高という接続・連携の中核としての教育プログラムの開発を進める」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度の KPI の実績は、教育内容、教育環境は概ね目標を達成したが、教育組織、教育運営は半分程度の目標達成に留まった。

準 2 級以上の英検取得者が複数名に上っている点は、高く評価できる。今後、更なる資格取得者の増加を図るためには、受検状況や学習到達度を丁寧に把握し、一人ひとりに応じた個別最適な指導を継続的に行うことが重要である。中学 2 年生では、3 学期に高校各コースの先輩から話を聞く機会を設けるなど、進路意識の醸成に向けた取り組みが実施された。また、現中学 2 年生より内部進学基準の見直しや特別奨学生制度の改正を行うなど、進学支援体制の強化が図られている。これらの施策の成果については、次年度以降の検証と報告に期待したい。2025 年度進路実績としては、97 名中 75 名（77%）が内部進学しており、少子化が進行する中で、これだけ多くの生徒を内部進学につなげられた点は一定の評価ができる。一方で、他校への進学者も一定数存在していることを踏まえると、中高接続における更なる連携強化を通じて、教育の特色や魅力を一層周知することが求められる。また、この課題は共愛小学校との接続とも密接に関わるものであり、小・中・高を通じた一貫した学びの接続を意識した取り組みの充実と広報が期待される。

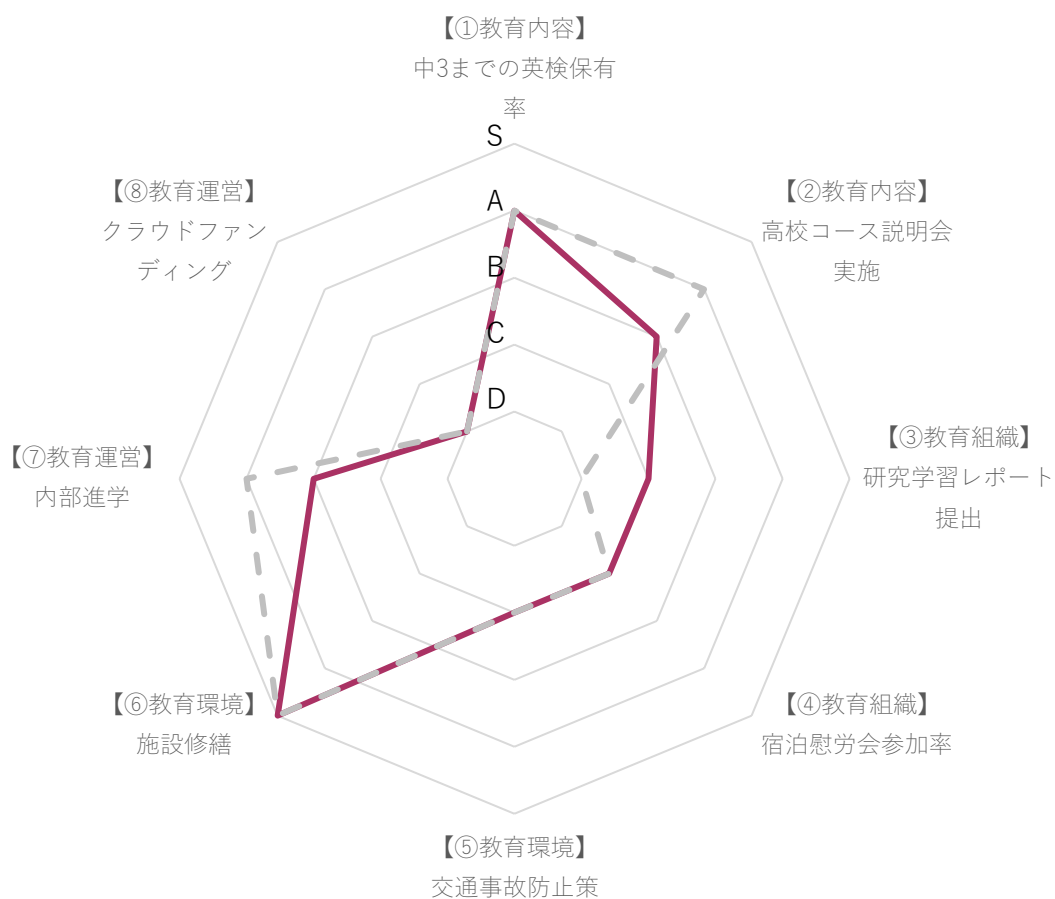
評価の低い領域を見ると、教育組織の運営について、全教職員を対象とした研修の実施や教職員合同慰労会の開催など、組織的な取り組みが進められているが、参加状況には改善の余地も見受けられる。また、KGI を視野に入れた満足度の把握や検証についても、継続的に注視する必要がある。交通指導については、生徒の安全確保という重要な役割を担う中で、交通事故件数の減少という成果が見られた点は評価できる。今後も継続的な啓発活動を通じて、更なる事故防止につながることを期待したい。施設設備の維持・修繕においては、補助金を活用した経費負担の軽減や、工期・着工時期を踏まえた計画的な事業管理が適切に行われている点を評価したい。また、3 カ年計画として掲げた事業目標を前倒しで達成した点についても高く評価できる。安定した収支基盤の確立は、持続可能な教育活動を支える上で不可欠である。クラウドファンディングやふるさと納税の活用検討も有効な方策の一つであるが、根幹としては、安定的な入学者確保を通じた経営基盤の強化に引き続き取り組むことが求められる。

表 4-1-1 中学校の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の3カ年計画 (2025年度)	単年度成果指標 (2025年度 KPI)	2025年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	礼拝や宗教行事を通しての人格教育、探究の視点に立つ教科学習を実践する	英語の実力を養成する。英語の実力を養成する	中3までに英検2級取得	80%	A
	②	内部から高校へ進む生徒を95%以上を目指す	高校生から直接話を聞く	高校コース説明会	77%	B
教育組織	③	社会の変化やニーズに対応するために、個々のスキルアップと学校としての組織力向上をはかる。アンケートで達成率95%以上を目指す	自己研修や修養に励む	find! アクティブラーナーを見てレポート年1回提出	50%	C
	④	将来像やビジョンについて教員と職員の共通認識・危機感を共有し、チーム共愛として意識向上をはかる。アンケートで満足度90%を目指す	教員・職員の相互理解	宿泊を伴う慰労会参加率 <u>60%</u> を目指す	50%	C
教育環境	⑤	交通事故防止による生徒の健康確保 年間交通事故3件以内	独自のマナーアップ運動	年間交通事故5件以内	50%	C
	⑥	建物の長寿命化	ベルタワールの全面補習	完遂	100%	S
教育運営	⑦	定員確保	内部進学の実現	共愛高校への興味向上 アンケート調査か進学実績 95%以上	70%	B
	⑧	経常収支計画の黒字化	生徒の活動補助としてクラウドファンディングの活用	中高併せて1千万円	30%	D

中学校 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



5. 高等学校 2025 年度実績報告書

5-1. 高等学校取組み事業総括

2024-2026 年度高等学校（以下、「高校」という。）の中期経営計画ビジョンは、「課程の枠を超え、文理融合や STEAM 等を含めた教育の質の転換を更に進めると同時に、中→高一の連携教育を更に発展させ、総合学園共愛学園の中等教育の後期課程としての役割もより明確にする」であり、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度中計の KPI の実績は、概ね目標を達成した領域として教育環境、教育運営が挙がる。教育内容、教育組織は半分程度の目標達成に留まった。

2025 年度は、「国公立大学・難関私立大学合格プログラム」を通じて、上位層・意欲層の育成に取り組み、早慶上理・GMARCH・関関同立への合格者 46 名を輩出した点は評価できる。女子生徒の理系進学実績の伸長も成果として注目される。医学科合格には至らなかったものの、継続的な志望者がいることから、今後も個別最適化した進路指導の充実が期待される。DX ハイスクール事業では、4 つの WG を中心に組織的に推進できている点が評価できる。特に、慶應 SFC と連携した「論理コミュニケーション」や大学との高校生議論会は、探究活動の深化と外部評価につながっている。また、整備した拠点を授業や広報活動に活用している点も特色化に寄与している。一方で、「デジタル探究教育プログラム」の具体化や、事業終了後を見据えた持続可能な体制整備については、早期の方向性整理が望まれる。生徒募集では、オープンキャンパス等を通じて受験者数増加につなげた点は評価できるが、入学者増には結び付いていない。今後は、教育の特色や育成したい生徒像、さらには中学との接続をより明確に発信し、学校の魅力向上につなげることが期待される。

中学校と同様の事業を掲げた教育組織の運営については、全教職員を対象とした研修の実施や教職員合同慰労会の開催など、組織的な取り組みが進められている。一方で、各種取り組みにおける参加状況には改善の余地も見受けられるため、教職員の参画意識を高める工夫が求められる。また、KGI を視野に入れた満足度の把握や検証についても、継続的に注視する必要がある。交通指導については、生徒の安全確保という重要な役割を担う中で、交通事故件数の減少という成果が見られた点は評価できる。今後も継続的な啓発活動を通じて、更なる事故防止につながることを期待したい。施設設備の維持・修繕においては、補助金を活用した経費負担の軽減や、工期・着工時期を踏まえた計画的な事業管理が適切に行われている点を評価したい。また、3 カ年計画として掲げた事業目標を前倒しで達成した点についても注目に値する。

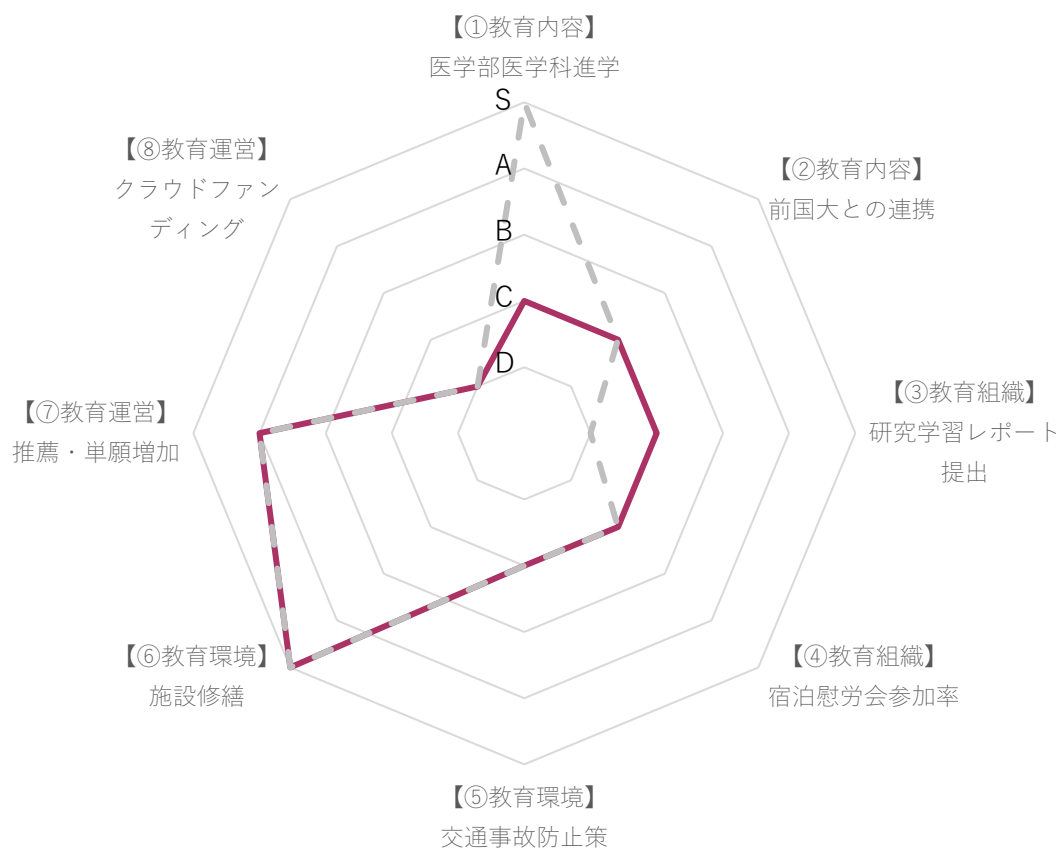
安定した収支基盤の確立は、持続可能な教育活動を支える上で不可欠である。クラウドファンディングやふるさと納税の活用検討も有効な方策のひとつであるが、根幹としては、安定的な入学者確保を通じた経営基盤の強化に引き続き取り組むことが求められる。その点、2025 年度には地道な努力を通じて受験者数を増加させたことは高く評価できる。

表 5-1-1 高等学校の中期計画実績評価表

領 域	事 業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の 3 カ年計画 (2025 年度)	単年度成果指標 (2025 年度 KPI)	2025 年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	旧帝大、外大、お茶の水女子大、ブロック大、早慶上理 GMARCH 関関同立、海外大への進学者 40 名以上	進学指導研修開催・英語 4 技能向上支援	上記進学および、医学部医学科への複数名	50%	C
	②	DX ハイスクールの推進と大学新学部「デジタル共創」(仮称)との連携体制の構築	コンソーシアム運営 前国大、地域学校、地域企業等と連携し、新学科またはコースの概要とともに新入生に向けての公表・発表	前国大、地域学校、地域企業等とコンソーシアムを形成し運営する。新入生に向けての公表・発表のアピール	50%	C
教育組織	③	社会の変化やニーズに対応するために、個々のスキルアップと学校としての組織力向上をはかる。アンケートで達成率 95%以上を目指す	自己研修や修養に励む	find! アクティブラーナーを見てレポート年 1 回提出	50%	C
	④	将来像やビジョンについて教員と職員の共通認識・危機感を共有し、チーム共愛として意識向上をはかる。アンケートで満足度 90%目指す	教員・職員の相互理解	宿泊を伴う慰労会参加率 <u>60%</u> を目指す	50%	C
教育環境	⑤	交通事故防止による生徒の健康確保 年間交通事故 3 件以内	独自のマナーアップ運動	年間交通事故 5 件以内	50%	C
	⑥	建物の長寿命化	ベルタワーの全面補習	完遂	100%	S
教育運営	⑦	定員確保	受験生の増加(推薦・単願)	推薦・単願の 30%増	95%	A
	⑧	経常収支計画の黒字化	生徒の活動補助としてクラウドファンディングの活用	中高併せて 1 千万円	30%	D

高等学校 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



6. 短期大学部 2025 年度実績報告書

6-1. 短期大学部取組み事業総括

2024-2026 年度の短期大学部中期経営計画ビジョンは、「子育て、食等の地域の課題解決に主体的にチャレンジする意欲を持った学生を育てることで、ステークホルダーから評価を受ける短大になる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標 (KGI)、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標 (KPI) が設定されている。

2025 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育運営は目標を達成し、教育環境についてもほぼ目標を達成した。

「SD-challenge」では、ループリック評価の導入により、学生が到達目標を具体的に把握できるようになり、高い達成感や満足感につながっている点は評価できる。達成度が高水準で維持されていることに加え、自己評価を細分化できるようになったことも意義深い。一方で、目標設定や検証に関する評価が相対的に低いことから、振り返りや課題設定を支援する指導の充実が望まれる。また、「こども学」で高い成果が見られた点については、他分野への展開も期待される。地域連携では、「地域サポーターズアワード」により、学生の参加率や延べ参加者数が向上しており、学生の主体的な活動促進に一定の成果が認められる。学生数減少下でも参加実数が増加している点は評価でき、今後は学修成果や地域定着への効果検証も期待される。外部資金獲得では、県の実施する助成を継続採択できた点は評価できる。今後は大学幼児教育・保育コースへの移行を見据え、保育分野での助成獲得強化が望まれる。内部質保証では、外部評価委員会規程の整備や学長との意見交換会の実施により、学生や外部有識者の意見を大学運営へ反映する体制整備が進められている点は評価できる。施設開放時間延長に向けた具体的対応も好事例であり、今後は改善結果の検証や継続的なフィードバック体制の構築が期待される。キャリア支援では、組織改編後も面接対策や履歴書添削など支援体制を充実させ、進路決定率 90%以上を達成した点は評価できる。常駐体制の整備により相談対応力も向上しており、今後も個別支援の継続が望まれる。学生募集や入試対応では、教職員がオープンキャンパスや高校ガイダンス等へ積極的に関与し、部門横断的な連携を進めた点は評価できる。今後は、大学入試広報・就職部との更なる情報共有と連携強化が課題である。財務面では、想定外の支出増が生じる中であっても、約 27,500 千円の支出を削減し、前年度支出に対して 4 %の削減を実現した点は高く評価できる。

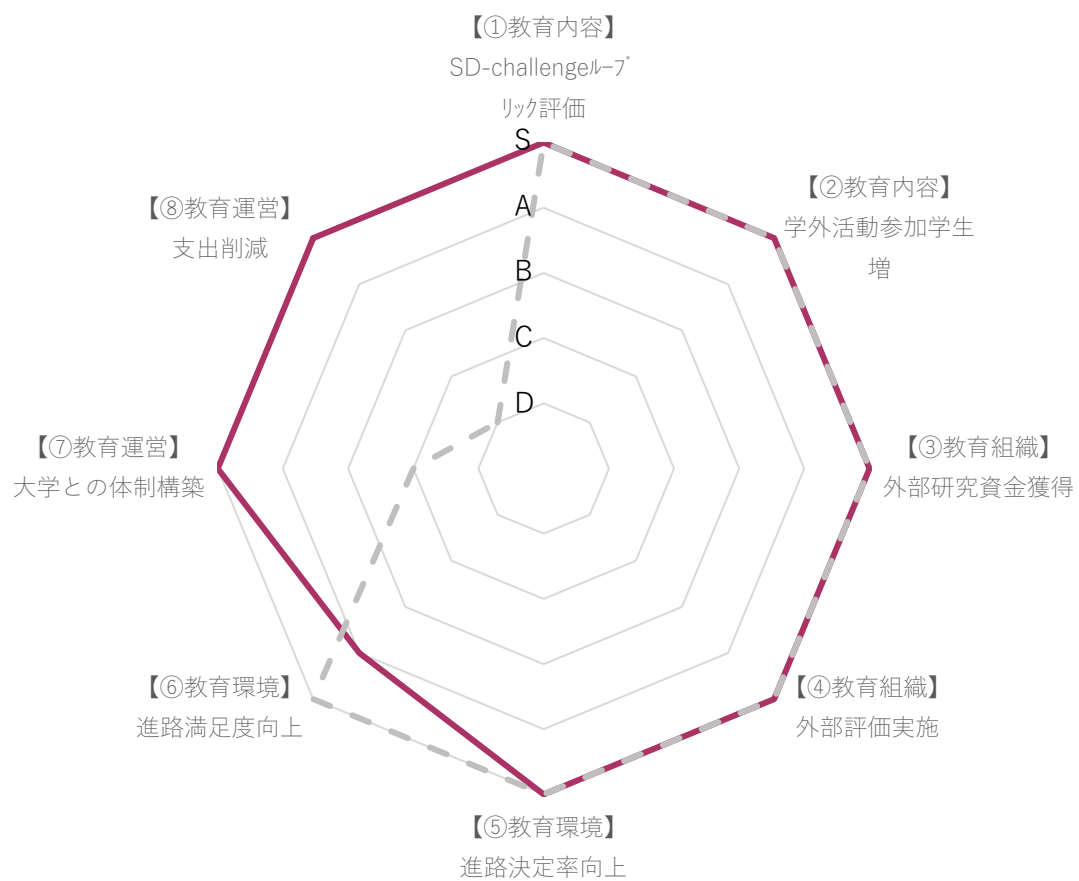
最終年度においても、教育の質を損なうことなく適切な経費管理に努め、学生が「この学校に入学して良かった」と実感できる教育・支援体制を引き続き堅持していくことが期待される。

表 6-1-1 短期大学部の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の 3 カ年計画 (2025 年度)	単年度成果指標 (2025 年度 KPI)	2025 年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	クォーター制と SD-challenge の充 実	(SD-C) ループリ ック実施	評価票の作成と活用	100%	S
	②	学生の参加率 6 5 % (参加学生数/全学 生数)	学生参加率の向上	前年度比 3 ポイント アップ	100%	S
教育組織	③	外部研究資金の獲 得 3 件	外部研究資金の獲 得	1 件以上	100%	S
	④	教学マネジメント の充実	・ 学生意見をもとに 改善 ・ 外部評価の実施	・ 改善策の実施 ・ 外部評価員会の実 施	100%	S
教育環境	⑤	進路決定率の向上 (95%以上) (進路決定者数/卒 業者数)	進路決定率	90%以上	100%	S
	⑥	就職サポート満足 度向上に向けたサ ポート体制の整備 (進路満足度 100%)	サポート体制の改 善	前年度比満足度 10 ポ イントアップ	98%	A
教育運営	⑦	定員の 100%確保	新教職課程と新学 部の広報準備	大学との体制構築	100%	S
	⑧	2023 年度決算比で 経常収支差額 30% 改善	広報縮小に伴う予 算の精査と適正支 出による支出の削 減	前年度支 4%の削減	100%	S

短期大学部 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



7. 大学 2025 年度実績報告書

7-1. 大学取組み事業総括

2024-2026 年度の大学中期経営計画ビジョンは、「最先端の学修と人材育成を確立させるカリキュラムを柱に、教育の質保証システム先進大学となる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度中計の KPI の実績は、教育組織、教育環境において目標を達成し、教育内容、教育運営についてもほぼ目標を達成した。

2025 年度、新学部「デジタル共創学部」設置に伴う 2 学部体制への移行について、大学全体の規程を総点検し、基幹教員制度への対応を含めた大規模な規程改定を実施できた点は高く評価できる。企画運営会議・教授会・理事会を通じて必要な手続きを進め、教務システム面においても科目登録や卒業要件等の整備を完了させており、開設準備を着実に進めたことがうかがえる。一方で、膨大な規程改訂に対して、今後は運用開始後の検証や、規程間やシステム間における整合性確認を継続的に行うことが望まれる。また、新学部の設置に伴い、学びを充実させる新 6 号館建設については、定例会議による工程管理のもと、概ね計画通りに建設を進めた点は評価できる。ネットワーク関連で設計段階との認識齟齬が生じ、追加工事による経費負担が発生したことについては、今後の課題として ICT インフラを含めた基本設計段階での関係部署間の調整強化や、余裕を持った工期検討が求められる。新学部含む大学への入学者確保の状況について、高校訪問やガイダンス参加を積極的に展開し、実志願者数や県外出身入学者数を増加させた点は成果として高く評価できる。特に大学全体では過去最高の入学者数を確保しており、今後、デジタル共創学部の教育の実績作りとその広報を通じて、両学部の定員充足を期待したい。出口としての就職支援では、ターゲット企業との接触学生数が基準年度比 180% となり、KPI を達成した点は高く評価できる。授業や業界研究を通じて学生との接点を拡充できている一方、授業外での接点創出には課題が残されており、従来の取り組みに固定化されない新しい取り組みの検討が求められる。内部質保証については、学生アドバイザー委員会を新たに組織し、学生意見を基に改善指示書を発出した。改善報告まで結び付けたことで、学職協働型の大学作りが機能し始めたことは高く評価できる。また、認証評価の指摘を踏まえ、内部質保証委員会と自己点検・評価委員会の役割整理を行い、迅速に体制運用を進めたことも前進といえる。今後は、改善成果を全学的な教育改善へどのように波及させるかが課題となる。

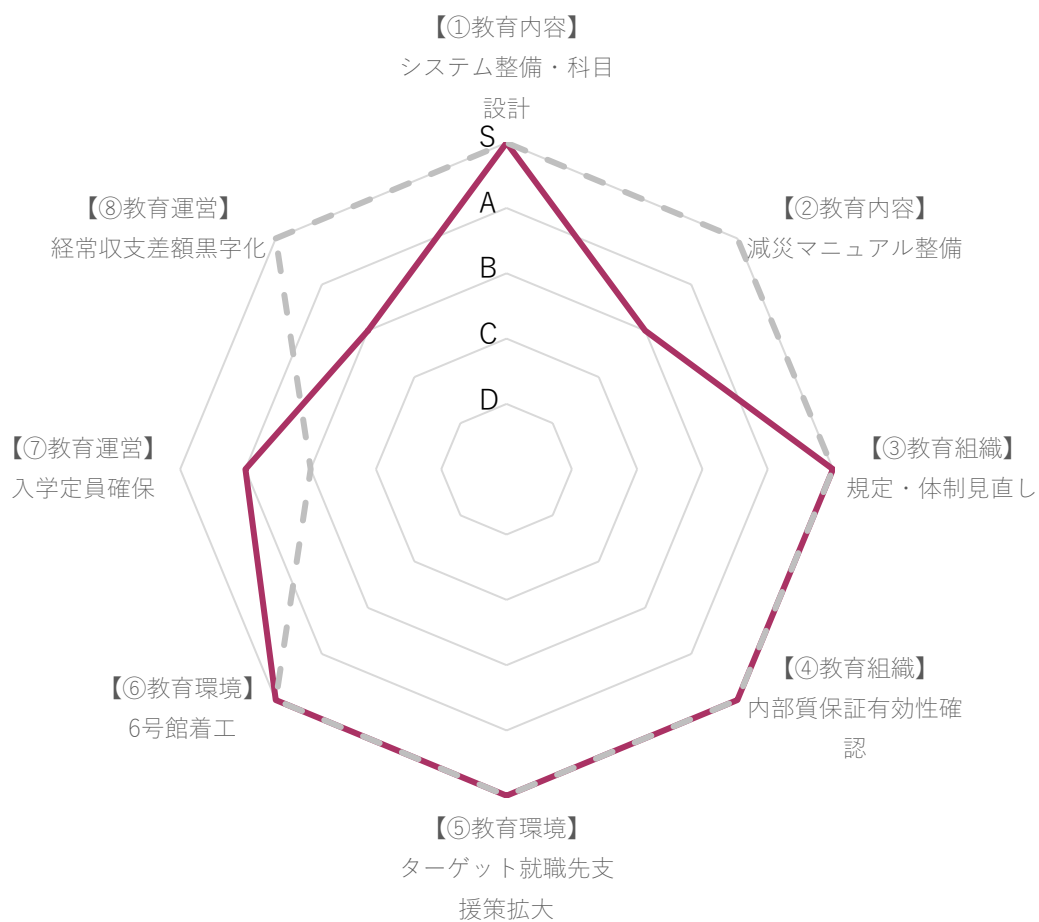
一方で、地域連携・産官学連携分野では「めぶく。プラットフォーム前橋」の取り組みを挙げているが、他の事業に比べ KPI 達成率が下振れしている。防災マニュアル整備に向けて行政や他大学の事例調査を実施し、原案作成に着手した点は評価できるが、参画団体間の温度差により具体化に至らなかったことから、今後は関係機関との目的共有や役割分担、アジャイル始動を通じて、具体的な行動として実行されることが期待される。

表 7-1-1 大学の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の 3 カ年計画 (2025 年度)	単年度成果指標 (2025 年度 KPI)	2025 年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	新学部「デジタル共創学部」 設置	新学部受け入れ準備・2 学部体制整備	システム整備完了、全学共通科目設計	100%	S
	②	地域連携・社会貢献の拡充	地域と連携したリスクマネジメント体制構築	減災活動マニュアル整備	66%	B
教育組織	③	新学部「デジタル共創学部」 設置	2 学部体制整備	各種規程・体制見直し	100%	S
	④	内部質保証の組織改善	新体制組織での運営、見直し	新体制の有効性確認、見直し	100%	S
教育環境	⑤	ターゲット就職先実績向上 理系人材募集企業開拓	ターゲット就職先支援策の拡大	ターゲット企業との接触学生数の増加（基準年度 20%増）	100%	S
	⑥	6 号館建設	6 号館着工	工程管理、什器備品決定	100%	S
教育運営	⑦	定員確保	・新学部を含めた広報戦略 ・新学部を含めた学生募集 ・新学部を含めた広報拡充	・高校訪問・進学ガイドンスを含め 130 校以上 ・新学部を含め入学者定員確保 ・県外高校への広報強化、県外高校からの入学者 50 人以上	91%	A
	⑧	経常収支差額の黒字化	基本金組入額 5 千万円程度	経常収支差額 1 億円以上	75%	B

大学 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



8. 学童クラブ 2025 年度実績報告書

8-1. 学童クラブ取組み事業総括

2024-2026 年度の学童クラブ中計ビジョンは、「共愛共生の精神が養われ、その良さに気づき、さらに深めようとする児童を育てる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境、教育運営のすべての領域において概ね目標を達成した結果に留まった。

2025 年度は、大学との連携を通じた体験活動の実施や、地域・保護者・職員間での意見交換を積極的に行った点は評価できる。特に、大学教員を通じてゼミレベルでの企画を実施できたこと、音楽教室、讃美歌教室の実施は、他の学童では得難い学びや交流の機会となっており、総合学園としての特色を活かした取り組みと言える。また、中学校との広報連携は、生徒募集にも関係する取り組みであり、他部門の課題解決にも寄与する点で評価できる。

一方で、各取り組みについて、その成果や課題改善への具体的な反映が十分に示されていない点は改善が望まれる。例えば、保護者や職員から出た意見を「形にできなかった」としているが、これは意見共有の仕組みがあっても、実行体制や優先順位整理が不足している可能性を示している。また、大学との交流に偏っていることや、中学生との直接交流機会を設けられなかったことから、連携対象や活動内容が限定的になっている点も課題である。学園全体の強みを活かすために、利用する児童の発達段階やニーズに寄り添った交流計画が求められる。安全管理や運営面では、施設利用拡大や利用者増加に伴う課題が明確になっている。大学食堂利用時の火傷事故や、施設利用時に目が行き届きにくくなっている状況は、利用人数に対する職員配置や動線管理、安全マニュアルの再整備が必要であることを示している。また、事務負担の一部集中についても、属人的な運営が続くと業務停滞や部門としての業務理解の欠如につながる恐れがあるため、業務の可視化や標準化が求められる。財務面では、2 単位化による収入増加など黒字化に向けた努力は評価できるが、将来的な設備更新や車両更新を十分織り込めていない可能性があり、中長期的視点での財務計画の精緻化が望まれる。

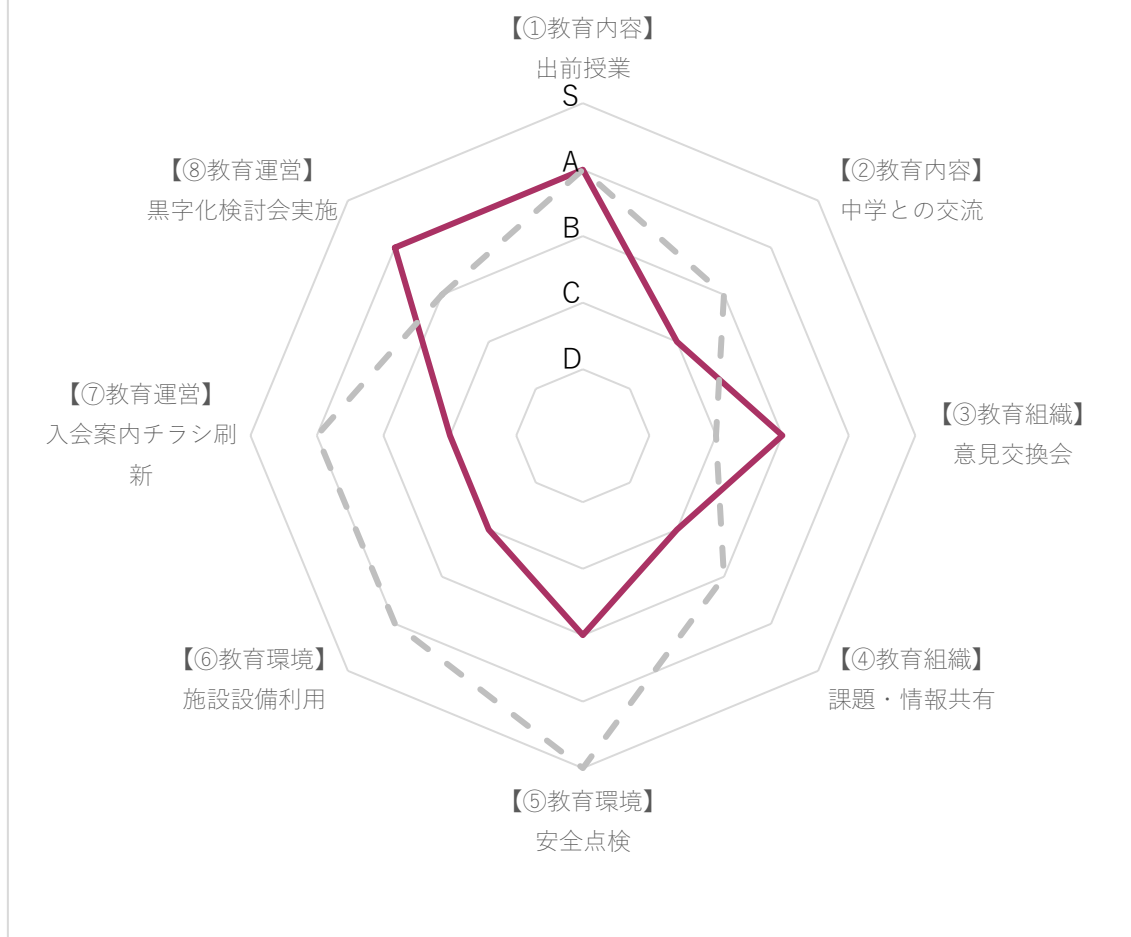
学童クラブは、放課後の安全な居場所を提供するだけでなく、こども園から大学までを有する総合学園の教育資源を活かした学びと成長の場として重要な役割を担っている。共働き世帯の増加や保護者の就労形態の多様化により、学童には「預かり」に加え、「安心・安全」「教育的価値」「多様な体験機会」が求められている。その中で、中高・大学の教職員や学生、生徒との交流など、異世代との関わりを持てる点は総合学園ならではの特色である。また、学童クラブは保護者との接点が多く、その対応や安全管理、活動内容の充実が学園全体への信頼や評価にも直結する。教育活動、地域連携、募集戦略の各面において学園全体の価値向上を支える重要な部門であり、継続的な運営改善と質の向上が求められる。

表 8-1-1 学童クラブの中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の3カ年計画 (2025年度)	単年度成果指標 (2025年度 KPI)	2025年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	共愛学園に愛着を持ち、共愛共生の精神を大切にする児童を育てる	他部門との交流や出前事業を充実させる	他部門の出前授業 年2回開催	90%	A
	②	こども園、中学生とかかわりを持てる行事を行う	中学について知る機会をつくる	中学の様子を知る機会、訪問する機会を年1回ずつ作る	50%	C
教育組織	③	子どもたちの理解とかかわり方について学び、自分や職員同士の理解も深め信頼し合い保育に当たる	お互いの意見や思い、外部の意見を交換する場を設ける	意見交換会 年1回	70%	B
	④	ボランティアを充実させ、職員の負担を減らしそれぞれの良さをいかせるようにする	お互いがどの事務を行っているか把握し協力する	ToDo リストの共有、状況の共有	50%	C
教育環境	⑤	施設設備や車の定期的な点検の実施と子どもたちの安全教育を行う	施設の危険箇所等を子ども達と確認し、危険事案についての共有を行う	年3回実施	70%	B
	⑥	学童の施設設備を定期点検し適正に使用するとともに、学園施設も積極的に活用する	行事にあった学園施設を使用させてもらう	体育館やグラウンド、ホール等を年2回利用	50%	C
教育運営	⑦	定員確保	魅力的なチラシの作成	入会案内チラシを新しくする	50%	C
	⑧	経常収支計画の黒字化	収入・支出について把握し、適正な財務を行う	黒字化検討会 年2回実施	90%	A

学童クラブ 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



9. 法人事務局 2025 年度実績報告書

8-1. 法人事務局取組み事業総括

2024-2026 年度の法人事務局中計ビジョンは、「今、共愛（共生）の使命（Mission）に生きる」とし、ビジョンに基づき 4 つの領域、8 項目の事業達成目標（KGI）、各 KGI には 3 カ年計画および各年度の成果指標（KPI）が設定されている。

2025 年度中計の KPI の実績は、教育内容、教育組織、教育環境の領域はほぼ目標を達成しているが、教育運営は半分程度の目標達成に留まった。

2025 年度における法人事務局の取り組みでは、「新規事業の推進」「内部監査室による監査実施」「施設設備の充実」において KPI 目標を達成し、法人運営の着実な前進が認められる。特に、大学新学部を設置認可および大学 6 号館建設は、多くの課題を乗り越えて実現した成果であり、本学園の将来を見据えた新たな教育展開の基盤整備として高く評価できる。DX ハイスクール事業については、デジタル機器整備や外部連携を積極的に推進しており、時代に即した教育改革として意義が大きい。一方で、教育成果との関連性の可視化や、対外的な広報コンテンツの整理など、中長期的視点による事業管理が求められる。義務教育学校設置準備についても、前橋市の動向を踏まえながら、先進事例となる学校への視察など、本学園として可能な準備を着実に進めている点は評価できる。内部監査は継続的に実施されており、今後もリスク管理や適正性確保のさらなる充実が期待される。

一方で、地域貢献については、ボランティア活動や公開講座等を推進しているが、部門ごとの業務特性により実施状況に差が見られるため、学園全体として方向性を共有していくことが望まれる。組織活性化と人材育成では、早稲田 Quon アカデミー等を活用し、業務分野に応じた研修参加を進めている点は評価できる。一方で、研修成果の共有や有効性の検証については十分な議論が求められる。DX による業務改善も担当者レベルで進められているが、組織全体としては改善実感が限定的である。最大の課題は財政健全化である。大学は過去最高の入学者数を確保し、高校も高い充足率を維持している点は高く評価できるが、他部門では定員充足率 80%未満の状況も見られる。今後は募集分析、広報強化、内部進学導線整備など、具体的改善策の検討と実行が法人事務局の視点からも求められる。

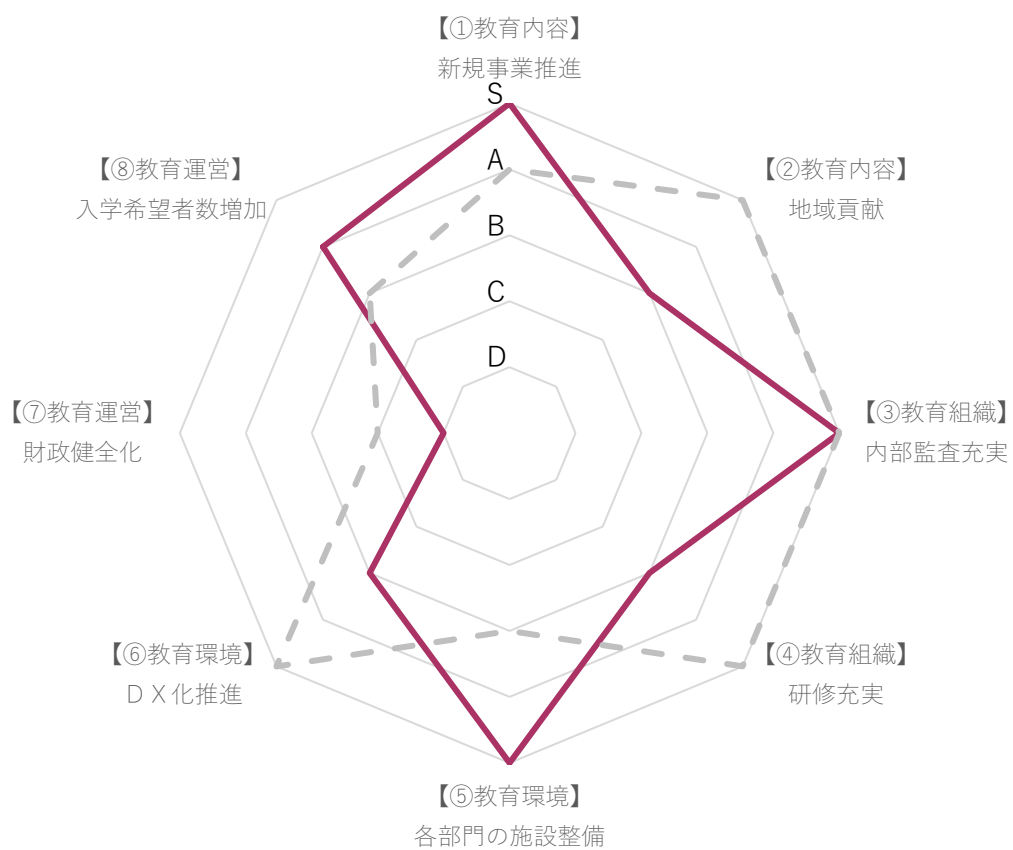
総じて、学園全体として将来を見据えた取り組みは進められているが、法人事務局職員一人ひとりが経営に対する当事者意識と危機感を持ち、成果指標や分析をより明確化することで、中期経営計画の実効性向上が期待される。

表 8-1-1 法人事務局の中期計画実績評価表

領域	事業 No	事業の達成目標 (KGI)	事業の 3 カ年計画 (2025 年度)	単年度成果指標 (2025 年度 KPI)	2025 年度 KPI 達成率	評価
教育内容	①	新規事業の推進	・大学新学部設置 ・高校新学科/コース 等設置準備 ・義務教育学校設置準備	・設置認可 ・DX ハイスクール事業 推進 ・単年度事業実施報告 書	100%	S
	②	地域等への貢献	・ボランティア活動の 充実 ・公開講座・教室の充 実 ・プラットフォーム事 業の促進	各部門における地域貢 献活動の状況。 (活動の質、頻度、種 類、効果)	74%	B
教育組織	③	戦略・創造型事 務局への転換	内部監査室による監査 実施	各部門の内部監査充実	100%	S
	④	組織の活性化と 人材育成	各研修の充実・参加	各部門における研修活 動の状況 (研修の質、頻度、種 類、効果)	69%	B
教育環境	⑤	各部門の施設設 備の充実	・6 号館建設推進 ・中高施設設備改修 ・小学校の施設、設備 改修推進	・大学 6 号館設計・建 設業者決定 ・中高体育館空調設備 ・小学校体育館空調設 備設置	100%	S
	⑥	D X 化への対応	DX による業務改 善推進	各部門における DX 化 による業務改善の状況 (改善の質、頻度、種 類、効果)	64%	B
教育運営	⑦	財政の健全化	全部門の経営安定 化	・全部門の経常収支差 額の黒字化 100% ・140 周年募金事業達成 率	28%	D
	⑧	質の高い生徒・ 学生の確保	・受験生増加策の検 討・実施 ・学園ブランディング	全部門の定員に対する 入学者数	83%	A

法人事務局 2025年度KPI評価

— 2025 — 2024



10. 実績報告書まとめ

本報告書は、2025 年度における各部門の中期経営計画に係る KPI 達成状況の評価と、未達成領域における課題の抽出を主たる目的とするものである。教育内容に関する KPI は全体として高い達成状況を示した一方で、教育運営面においては依然として課題が顕在化している。

学園の前期中期経営計画ビジョンである「教育の質を高める」という方針のもと、多くの部門において教育内容の充実に向けた積極的な取組が展開され、その成果として KPI の高い達成率が確認された。これにより、教育の質向上が着実に進展していることがうかがえる。一方、教育組織や運営面では、教職員研修の不足や組織力の弱さが課題として顕著であり、学校間連携の強化や教職員の資質・能力向上が求められる状況にある。特に、こども園、中学校及び高等学校においては教職員研修の実施率が低水準にとどまっており、教職員の意識改革と組織活性化は喫緊の課題である。少子化の進行に伴い、入学者数の確保は一層厳しさを増している。特に小学校では定員充足率が 68%にとどまるなど、複数部門で定員未充足が発生した。大学においては過去最高の入学者数を達成したものの、県外高校からの入学者確保については目標未達となった。今後は、広報活動のさらなる強化に加え、教育内容の魅力化を通じた志願者確保が必要であり、すべての部門で総合学園としての特色と強みを生かした募集戦略の構築が求められる。施設改修や新学部開設に伴う 6 号館の建設は着実に進展しているものの、昨今の社会情勢の影響により、資材価格の高騰や工期遅延等の課題も生じている。経常収支の黒字化については、こども園、大学で達成された一方、その他部門では未達成となった。今後は、補助金の積極的活用による支出抑制と、計画的な財務運営に基づく収支計画の精度向上が必要である。また、一部部門では財政的制約により施設設備の拡充や修繕が計画どおり実施できていない状況も見受けられ、法人全体として財政基盤の強化が持続的発展に向けた重要課題となっている。

2025 年度は、教育内容において多くの成果を上げた一方で、昨年度に引き続き、教育組織・運営面及び財政面における課題が明確となった。2026 年度は現行中期経営計画の最終年度に当たることから、研修や交流を通じた組織力の強化、内部進学を含めた定員確保、法人事務局機能の効率化等を通じ、経営の安定化と教育の質向上を両立させる必要がある。当期の中期経営計画を振り返ると、今後、本学園において重点的に推進すべき事項は以下のとおりである。

- ①学園創立 140 周年記念事業の実現および 140 周年記念募金活動の推進
- ②小中高の定員確保に向けた広報戦略と内部進学制度の実質化
- ③新学部開設に伴う研究力強化と、県外広報戦略の強化
- ④中心市街地への義務教育学校設置に向けた計画的準備の推進
- ⑤施設整備費用および人件費等の予算適正管理
- ⑥教職員研修の定期的実施と質的向上、並びに組織文化改革の推進。